

(松岡)

では、続きまして、重度知的障害者の住まいの場を作るために、多機能地域生活支援拠点アンケートおよび、自立支援協議会事務局の坂本と、ステップ広場ガル施設長、木村様の方からご報告の方いただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

(坂本)

それでは、重度障害のある方の住まいの場ということで、この度アンケートをとりました結果を報告します。多機能地域生活支援拠点というふうに言われても「なんだじゃそりゃ」っていうことがあるかなと思うんですけど、多機能、要するに、障害のある人の生活を支えるいろんな機能が詰まった拠点という意味です。たくさんの機能が詰まった拠点だから多機能ということで、その軸になるのはどういうものが必要かなということで、今回は、今、大津で、重度の知的障害があって、行動障害を呈するというような方の住まいの場が足りないという課題を認識していますので、まずそれが要だろうということで、どんなものが必要なのかっていうことを具体的にあの困りをアンケートで聞いてみようと思って実施しました。

では紹介していこうと思います。

(共有画面)

はい。では、アンケートの紹介をしていきたいと思っております。

このアンケートは、3月1日から19日の間、大津市内罪状で区分5・6の療育手帳のみを持っている方で、18歳以上の方を対象に実施しました。

通所施設等から対象者に配布をしてもらうことと、Web上でのアンケートをしました。

回答者数は104件です。

配布数は134件だったので、回収率は78%になりました。

1番にどのような障害がありますかということで、95%の方が重度A1、A2の知的障害、手帳B1、B2少なかったです。

区分5・6の方に絞って配っているのですかと思っております。

ご本人の年齢についてですが、20代の方が多く、20代の方が多いってちょっと意外だったんですけど、若い人多いんだなということは思いましたんで、年を重ねてらっしゃる方の場合はもうすでに入所されているということもあるかなというふうには思いました。

で、回答されてる方はどなたですかという、85%がお母さんで、11.5%がお父さんでこの他の親族の方というようなことでした。

では具体的な内容に入っていきます。

まず4番目の項目で、「今、困っていること」「どんなことで困っていますか。」というのを聞きました。

このような質問項目があつたんですけども、高くなっているところは6番と、11番ですね。

6番大きな声を出すとか、11番は排泄の困りごとがあるというようなところが多くなっていました。

グラフにするとこんな感じになりますが。ただ他の項目も別がないというわけではなくてほしい 20% 前後ぐらいのところはあるという方が多かったです。

その困っていることを具体的に書いてくださいという、自由記述の欄があったんですけども、これがものすごい量でしてね A4 用紙で 15 ページぐらいの量になってしまったので、ちょっと全部は載せれないんですけども、少しだけこんなふうになってますというのを出します。

怒りをコントロールできずにつかみかかってきたり髪の毛を引っ張ったりする
声を出して近隣からうるさいと言われている
というようなこと。

トイレの問題であったりとか、小さい子供や赤ちゃんの泣き声が苦手。
というようなことですね。

やっぱりここへの問題は多かったですね。

大きな声を出すので警察に通報されることはあったということなど、
あと就寝時間がね日をまたいだりほとんど寝ないときもあると睡眠の問題。
ですね。

女性の場合は生理の時に発作が起こったりとかして、不安定になるというような話もありました。

木村さん。このあたりアンケートの結果読んでみていかがだったでしょうか。

(木村)

改めてよろしく申し上げます。ステップ広場ガルの木村です。

まず、たくさん本当に貴重なアンケートの結果を、皆さんご記入いただいて、非常に参考になる中身が多かったなっていうのが印象です。

ガルも入所施設で 24 時間ですね、生活支援をずっとさせていただいてますが、ここに行われたことを書いていただいている中身と、本当にリアルに感じられることがたくさんあって、本当に生活に密着した、密接したお困りごと、それはおそらく利用者さん自身が困ってる状況もあるだろうし、ご家族さんが同時に困ってる中身もあるだろうし、もしかすると、ご本人さんは実はこだわりであったり、ご本人さんの世界の中でされてる行動がたくさんあるんだけど実は周辺とのミスマッチによって困る状況が発生するみたいな中にも多分あるんだろうなっていうのは、本当にたくさんの中身を見させてもらって、すごくリアルに、且つ生活に本当に密着した困りどころがたくさんあるし。それを僕らはね、日々（職員の）チームでいろいろなタイプの方させてもらってるんで、みんなで試行錯誤しながら、様々な支援をさせてもらったりはできるんですけど、あのご家庭だと本当にその困る状況っていうのはたくさんあるんだろうなっていうのは改めて、中身を見させていただいて感じていたところです。

(坂本)

はい、ありがとうございます。

本当にそうですね。まず、量に圧倒されるところもありますし、きつこういうことで困ってらっしゃるだろうなということを、これはプロジェクトメンバーでも議論をしてアンケートの項目は作ってるんで

すけれども、この具体的な一つ一つが見えてくると「すごいな」というふうなことを感じました。ありがとうございます。

(坂本)

では次。6番は「ご本人の将来の金銭的不安はありますか」という質問をしました。

84.4%の方が金銭的な不安があるというふうな答えでしたね。

具体的にどんなことが不安ですかということを聞いたんですけど、やっぱり6ですね。障害基礎年金のみでは生活できないのではないかとということ。それから1の生活費が足りないのではないかっていうのはほぼ同じような意味かと思うんですけども、この辺りが多くなっています。

グラフにするとこのような形になります。

ごきょうだいの負担になるのではないかとということも心配されてる方もいらっしゃいます。

このあたりは木村さんいかがでしょうか。

(木村)

はい。なかなかね、実際生活のイメージというか、どれぐらいの金額で1ヶ月本当に暮らせるんだみたいな、想像というか想定というか、なかなかそんな機会がすごく少ないので、あの坂本さんがいつもおっしゃってるみたいに、なんか本当にモデルというか、こんなぐらいで1ヶ月実は暮らせるんだとかこんなサービス使うとこれぐらいの金額になるんだみたいな、なんか実際のイメージができるようなものを皆さんと共有できたりすると、安心感を持っていただける部分なんかもあるんだろうなっていうのは、改めてプロジェクトのメンバーの中でもお話をしていたところです。

はい。ありがとうございます。

(坂本)

そうですね。私もあの昨年、「大津市障害児者と支える人の会」の研修会で「お金の話」ということでお話ししてもらったときに、グループホームを利用されてる方に、いったい月いくらぐらいの請求書が来るのかっていう請求書のコピーだったりとか、あと成年後見人が裁判所に提出する収支報告書のコピーなんかを見ていただいて、これぐらいなんですよ、っていうのを見ていただいたりすると、イメージがつかやすかった。そういう機会っていうのも重要だなというふうに思いました。

はい、ありがとうございます。

(坂本)

次8番です。

8番はご本人の暮らしの中で大切にしたいことということで、今から10年後ぐらいを目処にということでお聞きしました。あとこれは、複数回答になってますので、のぞむものすべてにチェックをかけていただいています。なので、1番の自宅大で家族の支援を受けて暮らすというのと、10番の本人に合った支援を受けられる施設入所支援（個別の対応が受けられるところ）というところが、大きい数字になっているということになりまして、本人に合った支援が受けられるグループホームというところ、その三つぐらいが40%を超えて、いるというところですね。

グラフにするとこんな感じがあるんですが、半分近くの方が在宅に自宅で家族と一緒に支援を受けながら、という生活を望んでおられるというのは、少し思っていたより多かったかなという印象もあるんですが、いかがでしょうか。

(木村)

意外と僕もあの施設入所とかホームの希望がもちろん多いんですけど、ご自宅が思ったより多かったっていうのは、あの、やっぱり、ただの冷静に考えると、やっぱりそれは自分の自宅で住み慣れたところで、やっぱり家族と一緒に暮らしたいんだっていうのが、やっぱり利用者さんの思いも、あの家族さんの思いも、やっぱり第一選択としては、やっぱり「そりゃそうやな」っていうのは思うところです。あともう一方でもしかすると、なかなかそうやって、ご本人さんに合った暮らしの場所が本当に地域の中にあるのかどうかって言われたときに、なかなかご本人さんに合った暮らしの場所が用意できない、できてないのかもしれない。その考えると、逆に言うと、「もう自宅で見るしかないわ」みたいな…、もしかするとそんな気持ちなんかも、この中に表れてるのかもしれないなっていうのは、一方で感じたりもするところで、そういう意味では同じように、9とか10ですよ、グループホームがやっぱり希望されてたりとか、入所施設がやっぱりこの時代になってもなおですよ、希望が多いっていうのは、そういった裏返しの部分もやっぱりあるのかなっていうのは、改めて思ってるところです。

(坂本)

そうですね。本当に、今、在宅のサービスもいろいろ昔に比べれば増えてきてるし、ヘルパーやショートステイを使いながらだと、家族で暮らしていけるかな、まあ、回答者20代の方、多かったですから、そういう方からすると、もうちょっといけるのかな、体力的にいけるかなっていうことを思ってるしやる方も…、今後10年っていうところだと、こういうふうに数字として出てくるのかなというふうに思いました。

そう考えるとグループホームの整備もちろん必要なんですけど、やっぱり同じように、あの家庭で暮らしていけるためのショートステイだったりとか、在宅のサービスのより一層の充実っていうことも大事だなっていうのをこの結果を見ながら思いました。

ありがとうございます。

(坂本)

次は9番。

「ご本人が暮らす場所の立地の環境はどんな場所がいいですか」というような質問をさせてもらったんですけども、これはダントツですごく多かったのがこの「近隣に障害理解がある地域」がいいということが、73%で多くなってます。

グラフにするとこのような感じで、続いては親の家の近く、週末に自宅でできるような範囲がいいなあというふうな回答があります。

これはやっぱり3のところについては、日常生活の中で近隣の方の障害理解があるということが、日々の生活のしやすさであり、逆に、理解が弱いなっていうことによって、最初の困ったことでの自由記述にもありましたように、大声を出して近所から苦情を言われるとかそういうしんどい思いを実際されている

ということが、理解がある地域がいいなということが多いのかなというふうにも思ったんですけど、木村さんいかがでしょうか。

(木村)

まず、環境のところで、本当に安心できる状況っていうのが、今あるかどうかっていう課題が、やっぱり突きつけられてるんだらうなっていうのは思います。

少々なんか大きい声出してもいいやんって、こう、受容されるような地域の状況みたいなことが、少しでもやっぱりないと、なかなか、今、反対運動なんかで、本当にこの2、3年の中でも、計画通りに進んでないグループホームの整備なんかも、事例としては上がってきてますので、そういったことを考えると、僕ら支援者ができること、ご家族さんたちができること、一方で行政なんかも含めて、やっぱり地域理解というか、本当に特にこの行動障害のタイプの人たちも、安心してやっぱり暮らせる環境、地域がやっぱりあるってのは前提になってくるかなっていうのはここにも現れてるなって改めて思いました。

(坂本)

ありがとうございます。

私、たまたま隣の家にグループホームが引っ越してきはったんですよね。けっこう重度の方が住んでらっしゃるんですけど、担当の方が、3月末に「僕4月で異動なんです」ってあいさつにきはって、担当の方が変わったんですよ。

最近、確かに、声が聞こえるんですよ。環境変わったしかなというふうに思いながら、やっぱり声を出してはるなと思ったりしてるんですけど、なんかそれでも私は知ってるので、ご本人さんも知ってるし、環境が、職員が変わったんやなとかも知ってるから、別になんとも思わないけれども、実際そういう、知らなかったら何か大きい声やな、何やろうとか思われるのは、思われるんやろうなって思います。だから、やっぱりそういうことを伝えていくってことですごく大事だなっていうのを、思いました。

あと一番のところも4割くらいの方が、「住宅店舗などが密集していない静かな場所」っていうのをのぞんではるのも、そうなんだなっていうのが、駅の近くで便利なところがいいっていう方もいらっしゃるかなと思いますけどもそのことが、しんどさに繋がる人もたくさんいらっしゃるかなっていうふうに思いました。ありがとうございます。

(坂本)

では次に10番に行きます。

定期的な通院をお伺いしました。

私の聞き方が悪くて、月の1回とか、月に2回みたいな選択肢だけにしてたら、3ヶ月に1回とか、2ヶ月に1回とか10週1回とかいろいろあったので、あるとないで集計させてもらいました。

そうすると9割の方が通院があるということで、皆さん何がしかの通院がやっぱりあるんだなということなんですけど、ガルでの通院状況なんかも含めてやっぱりこれはこんな感じかなっていうところですかね。

(木村)

そうですね。通院は結構やっぱり生活支援のところでは密接ですし、健康面と違って基盤になるものなので、日常的に、本当に、うちの施設なんかでも通院のところは、かなりの回数、年間、行かせてもらってます。

もちろん日常のケアが大事で、本当に爪切りひとつ、歯磨きひとつ、本当に日々のケアがどこまで丁寧にできてるかってのはすごく重要なんですが、ただやっぱり本当に、「困りごと」のところも書いてあったかもしれないですけど、食事が偏食やったりとかで、やっぱり歯磨き、なかなか上手にできなかつたりとか、爪きり本当に大変な人もたくさんおられたりとかですね。それでちょっと状態が悪くなるのでやっぱり通院にいかなあかんようになってしまうんです。

ただ、通院に行くのも、次またハードルがあって、なかなかスムーズに診察が受けられないとか、なかなか待ち時間が待てないとか、本当にいろんなハードルが皆さん利用者それぞれにあったりするんです。ただ基本的には、回数的には、皆さん、主治医の診察がベースにあるのと、あとは本当に歯科通院、皮膚科とか、花粉症やったりとか、かつそこに日々、もちろんケガされたりとかね、いろんなこと発生すると、またさらに通院数が増えていったりもするので、非常にこれが若い年代の方であっても通院あるやろうし、かつこれがうちの40代50代になって来ると、また別の意味での医療的な課題が発生してきたりもするので、やっぱり医療面というのは生涯に渡って、皆さん支えていく上でのすごく重要な部分やし、通院のハードルをどうクリアしていくかっていうのも、課題にはすごくあるんだろうなっていうのは思ってるところです。

(坂本)

次に、11番が、ご本人が暮らしやすい他者との距離感ということで、集団の大きさをお聞きしています。10人、5人、2~3人…。集団の中で個別的な対応、一人暮らしに近いイメージがいいです、というのもあったんですけど、多かったものは、集団の中で個別的な対応もしてもらえんっていうことの希望が多かったんですが、この辺りは、じゃ少ないから、11%しかないからとか、27%で少ないから、対象にしなくていいんだということではなく、その人にあった集団の大きさっていうのはこんだけ違いがあるんだなっていうことかなと思うんですけどいかがでしょうか。

(木村)

人それぞれ本当に、様々が課題があります。

やっぱりいろんな実践していいと思うのは、単純に数だけの話でももちろんないんですが、やっぱり10人超える集団で暮らしを作るっていうのは、やっぱりなかなか支援者側も利用者さんたちも、本当にやっぱりしんどいんだろうなっていうのは、あの環境的に、率直に思うところですね。

たぶん、昼間のグループとかで、活動する中で、一定の集団があるっていうのは、すごくそこは有効な部分というか、利用者さんにとっても有意義な部分っていうのはたくさんあるとは思いますが、やっぱり生活がメインになったときに、ご本人様に合わせたやっぱ集団みたいなことが、個別に合わせた集団の大きさっていうのはすごくやっぱあるなっていうのは様々な利用者さん状況を見ても、思うところです。

そういう意味ではいろいろ原点に帰ると、やっぱり家庭の規模の延長、その大きさ集団でも過ごせるス

ペースがいるし、こちらをやる場所もあるし、でも自分のパーソナルスペースというか、自分自身がやっぱり 1 人でいたい、いられる場所もしっかりあるっていう、何かそういった普通の暮らしの環境をベースに考えていくと、逆にシンプルなんかなっていうのはすごく実践を通じて思ってきているところです。

(坂本)

ありがとうございます。

私も昔の経験で、それこそガルからグループホームに入れた人たちが 4 人ぐらいの小さな集団になって、12 人の集団から 4 人になって、さぞかし喜ばはるやろうと思ってたら、急に少なくなったことで、周りの人の動きが気になりすぎて、「あのひと、どこいかはったん?!」みたいな感じで、ちょっとそれですんどくなる場面もあって、本当に様々で。でもやっぱり多すぎるのはしんどいし、そこを柔軟にどう対応できるっていうことがすごく大事だろうなというふうに思います。

ありがとうございます。

その他回答にも、相性がよければ二、三人程度かなとか、相性の問題とかもすごくあるので、その辺をどういうふうに作っていくかっていうのが大事かなというふうに思います。

(坂本)

次のところが 12 番ですけど、その生活空間にはどんなものが必要ですか、みたいなことを質問させてもらいました。

やっぱり個別的な対応案が欲しいというところの声は多いですね。

1.2.3.4 は、ある程度広さがあって動き回れる、でも、かつ静かで刺激が少ない、で、大声を出しても許される環境で、個別な空間があるというところなんですけど、これはですね、広くて動き回れて、大きな声出してもいいけど静かで刺激が少ないっていう、たぶん一つの空間でクリアができないので、複数の空間を使い分けるっていうようなことを必要になってくるだろうなというふうに思っていました。

いかがでしょうか。

(木村)

はいさっきも少し触れたところかなとはね、思いますけど。

さっきの問いも、この問いも、このアンケート結果が、僕ら多分こんなこと必要なやろなって思いながらずっと支援してきていますけど、ご家族さんたちの、この貴重な意見の中で、やっぱりこの多い部分っていうのは、「やっぱりそうなんやな」っていうのが、何か改めて、これ何回か、結果みてるんですけど、今、改めて出してもらっても、やっぱり必要だなっていうのは思ったところですね。

なんかぜひこんな環境をしっかりと、僕らの実践としてもそうだし、利用者さんニーズにとっても、やっぱりこういった環境が必要なんだなというの、改めて、ちょっと感想になってますけど確認をさせてもらいました。

(坂本)

ありがとうございます。

13 番個室内にテレビが設置できるも高いんですけど、実は、その他記述で、時代だな、と思ったのが、ネット環境、パソコン、youtube…。その希望がすごい、その他にたくさんあって、それは今の時代だなっていうのを思いました。

(坂本)

13 番です。

どのような支援者や支援が必要ですかという、人のところですね、お聞きした質問になります。

これは1番のところが多くて、支援者の方々ではある程度固定されてる方が、いいなあっていう声。

ただあまり固定しすぎない方がいいんだよって人も 14%ぐらいはるし、なるほどなっていうふうには思いました。

あと高いところは「家庭的な雰囲気を出せる職員がいる」みたいな、「専門的な知識技術がある」というところ。体力があって人気の職員ってあたりのところが高く出ていました。

下の、10.11.12 があのポイント高いんですけども、「相談しやすい職員がいる」とか、「報告・連絡・相談がきちんとできる職員がいる」とか、「緊急時の連絡がとれる体制がある」ってあたりは、ご本人さんというより、ご家族さんにとって、こういう職員にいてほしいなというところかなと思っていました。いかがでしょう。

(木村)

僕ら、専門性の部分が、多分やっぱり、必要だし、アセスメントで、僕らの言葉でいくとやっぱり利用者さん理解をやっぱりちゃんとさせてもらう。そんなアセスメントベースの支援をやっぱりしっかり積み重ねていくんだってというのが、私達の専門職としての、役割があるんだろうなと思ってるのと、あと一方でやっぱり家庭的な雰囲気って、僕らもう生活してさしてもらってますけど、そういう観点からやっぱりやっぱり、緩い部分というか、ご本人さんにももちろんわかりやすい形での緩やかな部分みたいなことが、やっぱ生活の中にあるってというのは、すごく重要な部分やと思うので、これは、職員育成が大変難しいところがたくさんあるんですけど、やっぱりその職員育成していくのが僕ら事業所というか支援者の仕事なんやろうなと思ってるので、またご家族さんの買った貴重な意見をお聞かせいただいて、またそういった職員育成なんかに繋げていきたいないうことを思ったりしてます。

(坂本)

はい、ありがとうございます。

8の「人権意識が高い職員がいる」のかそんなに高いポイントにならなくてちょっと意外だったんですけど、ここはプロジェクトメンバーと喋ってて、意見としては、「福祉の仕事してるんだから人権意識が高いのは当たり前だろう」ということで、あえてチェックがこうからなかったんのもかもしれないねというような意見も出てきておりました。ただ、やっぱりね、専門知識とか技術があっても、それを使う根っここのところには人権意識ってというのがしっかりなかったら、やっぱり支援はできないなと思ってるので、ここは大事なことだろうなというふうに思ってます。

続いて、14 番は「ご本人が暮らしやすい生活リズムや生活の中のどんなものですか」というところお聞き

したんですけれども、ただ全体的な流れは大きく変わらない固定的で安定した環境がいいかなっていうような声が多かったですね。

でもやっぱりたまにはちょっとショートステイを利用をするとか環境の変化もあったほうがいいかな、という方も4割近くいらっしゃるし、そこそこの数字かなと。やっぱり本人の思いを尊重してもらえらしいっていうこと。高くなってるかなと思います。

(木村)

うちの施設いろんな日課、ある意味固定的な日課を作る部分と、少しイレギュラーで利用者さんのニーズに個別に合わせて対応させていただく部分といろいろ本当に組み合わせて、時間乗せさせてもらってるんですけど、ここにもう本当に皆さん、アンケートを書いていた通りなんだろうなっていうのはやっぱり改めて思います。

ご本人さん、特性というか、やっぱりわかりやすさみたいなことを、どう僕らは提供させてもらうかっていうこと、それにプラスアルファ、ご本人さんの、より強みであったり、楽しみやニーズであったり、というのにどう応えていくかということで、そう言ったことをしっかり組み合わせながら、やっぱり生活を作っていくかなあかなっていうのは、改めて思ったところです。

(坂本)

ありがとうございます。

次は、15番の医療との繋がりとということで。あの先ほど通院の回数を聞いてたんですけど、どんな病気とか、ちょっとした便秘がちとか、なんか頭痛持ちとかそういうことも含めて、どんな医療との繋がりがありますか？ということ聞いたんですけど、やはり歯科のことが多いなっていうところを歯医者さんですね、それは見てて感じましたそれから、あと、てんかん発作と定期通院の必要な慢性疾患があるというところですね。いかがでしょうか。

(木村)

はい。さっきの通院のところで触れさせていただいたところがやっぱり大きいかなと。思います。

さっき同じになりますけど、やっぱり生涯通じてね、おそらく影響してくるし、けっこう情緒面に、気持ちの不安定な状態に、けっこう、この健康面がわりとというか、だいぶ影響してくる…、やっぱり便秘ね、3日目、4日目で、うちもそんなカウントをしっかりとさせてもらったりしてますけど、やっぱり、排便コントロールがちゃんとできてると、便秘3日目4日目5日目になって、本人さんがが気持ち的にもすごく不安定になって来るといみたいな状態なんかも生まれてくるので、本当に、ご本人さんが、やっぱりなかなか「これがしんどいねん」と表現するのが難しかったりするときに、この影響、健康面から受けてるっていうのが、特にこの近年は大事に見ていってるところではあるので、アンケートをいただいたところで意見はすごく共感するところが大きいです。

(坂本)

私も木村さんも頭痛持ちじゃないですか。

もう頭痛の時の辛さと言ったら、すごいから。これは、6.1%…本当はもっと多いと…。

やっぱりそうですよね、(重度の知的障害があると)「頭が痛いです」って言えないから、頭痛ですごい不機嫌な顔してはったりとか、「イー」ってなってはったりってということも、あるんだろうな、自分も(頭痛の時は)もうすごい不機嫌な顔してるし、やっぱそういう影響は大きいから、ベースの体調整えるっていうのはすごい大事なことだなっていうふうに思います。

(木村)

感覚過敏がね、やっぱり特性上、あられる方なんかになると、もう僕ら想像できないようなね、しんどい状態の中で過ごしてあることもやっぱりあると思うんです。

今日なんか、すごい湿度ですよね。

昨日、今日なんかすごい湿気で、本当に不快な感覚に陥ってしまうんで、やっぱドライ(エアコン除湿)ちょっとつけてあげるだけで、楽にならはったりすることって、本当に日常があるので。そういった意味では本当に様々なそれも環境と言えれば環境だし、ご本人さんに起こる身体的な状態みたいなことの評価みたいなことも、何か様々に僕ら見させてもらいながらケアせなあかんみたいなことは思ったりします。

(坂本)

はい、ありがとうございます。梅雨が今年早いんでね。かなりちょっと不調になってる人多いんじゃないかなというふうに思います。ありがとうございます。

花粉症は自由記述すごい多かったです。

はい16番。

日中活動はどのような活動がいいですかという質問をさしてもらったんですけど、これは3番。やっぱりあのバランスよく、あの静かな活動と動きのある活動を組み合わせたって、で、どちらかという活動かせる活動したいという人は多めですよというような感じでした。

はい。これはこんな感じかなっていう。印象ですかね支援してて。

これがこんな感じで最後の17番の休日の過ごし方。

聞いたところが、ヘルパーの利用をして外出したいという声が多く上がってます。

やっぱりもう今の世代の人になってくると、子どもの頃からヘルパー使ってはるという人が多いだろうし、そういうところかなというふうにも思いました。

休日の個別な活動メニューで過ごしたい、あとは、慣れた場所でゆっくり過ごしたいっていうことだったり、親が元気なうちは土日は家に帰って一緒に過ごしたいってような御意見も多かったです。

いかがでしょうか。

(木村)

なんかあまり、最近は、職住分離とかって、あんまりね、言葉として表現ということで使うことは、あまり少なくなってきたかなっていう気はしますけど…。

やっぱり、お昼間はしっかり活動して、安心して帰ってこれる住まいの場所があって、やっぱ楽しいこと、好きな事、取り組める休日の外出があっただい。

なんか本当に普通の暮らしを、どうコーディネートしていくかという、どうを作っていくかあげるかみたいな、やっぱりそういうことなんやろうなっていうのは改めて思っているとこなんです。

もうちょっと前の設問の結果でもあったかもしれないですけど、おそらく、住まいの場所ができて、グループホームができてそれでいいんだって話ではやっぱりなくて、うん、暮らす場所はもちろんあるけれども、みんな地域生活をそこで、そこを起点にしていくって考えたら、やっぱりこういった休日のヘルパーがいかに充実してるとか、いろんな活動に行ける事業所がいかに選択できて幅があるかとか、そんな組み合わせ、暮らし方事態をしっかりと作っていくことが、やっぱり両輪として必要なんだろうなっていうのが、結果みさせてもらっても思いました。

(坂本)

はい、ありがとうございます。

最後ですが、最後になんでもご自由にというところで自由記述があるんですけども。

「将来グループホームの生活を望んでるんだ」っていう方もいれば、「家での生活が一番安定しているんや、ショートの練習したけども本人が不安になって…」っていうような、なんで「親が元気で今の生活を維持したいんだ」っていうような思いを書いてらっしゃる。

だとか、「もうちょっと体験できるような施設が増えてほしいな。」とか。

また「施設ができて、支えてくれる職員が足りなくて運営できないっていう話を聞くことがあるから、何とか職員さんに長く勤めていただけるような手だてが必要だ」というようなことをご家族の方が言ってくださって。

やっぱり、お金の管理の不安だったりとか、この「今回アンケートがあったということで重度のの障害者の住まいの場の整備を考えてくださってるってことを知って、本当にありがたいと思ってる」みたいなこととかを書いてもらったり。

「親から離れたあと楽しく落ち着いて暮らしができることを望んでいます。」とか。

あと、本当に職員の心配をしてくださった記述が多くて、「関わってくださる方が問題や悩みを個人で抱え込むのではなくて、専門家のアドバイスを受けながらチームで関わってもらえる体制を整えて欲しい」というようなことだったりとか、「親としても受け身じゃなくてアクションを起こしていきたいけれども何から始めたらいいか、どこに話を聞きに行ったらいいか状況を教えてください」みたいな声があったりとか、あと「GH なり、ケアホーム安心して暮らせるっていうことを見届けてから死にたい」というような切実な声とか、そういうのが自由記述のところにはたくさんありました。

全体として、今の自由記述も含めてくださいいかがでしょうか。

(木村)

なかなかずっと重度でかつ自閉症であったり行動障害の状態があったりする方に向けての、その住む場所が本当に少ないっていう話はもうずっと実はね、してきてるし、ご家族さんにとったら本当に「いついつやねん」という、もうなんかそういう検討はされてるのは知ってるけど、前に進んでるのかどうかかって、なかなか見えないところも多分あるだろうし、実際本当に進めてくれてないことがあったんだろうなっていうことを、やっぱり経過みても思っているとこで。

実態として、計画的にやっぱり進めていかなあかん段階もう入ってきてるし、こちらのうちなんかでも、

具体的な検討も含めて初めてるところもありますので、ここはもうこんなことがたりひんしせなあかんって話から、もう実態として、こんなものを実際動かしていこうよってところの話に、大津の行政も関係機関も含めて、一緒にそっちに舵を取って進んでいくみたいなことを実効的に進めていくってのが一番、次に繋がるんだろうなと思ってます。

一気に、皆さんたくさん本当に落としニーズあるので、一気ににできるわけじゃないかもしれないけど、少しでもなんか、前に進んでるんだってということが、皆さんと一緒に共有できるような中身になっていけばいいな、このプロジェクトの検討も繋がっていけばいいなということを思ってます。

(坂本)

はい、ありがとうございました。

本当にいま、言ってもらったように具体的に取り組んでいきたい。で、今回のアンケートで本当にこういうものが需要だ！というところが具体的にすごく見えてきたと思います。

さあ、作ろうということになっても、でもね、本当にどこから土地やお金がふってくるっていうことでもなかったりして、この建物ができたとしても、アンケートの中にあつたみたいに、そこで働く人見つけて、人権意識・専門知識・技術を身に付けてもらって、かつ長く働き続けてもらうってのは本当に簡単なことじゃない。

運営を維持するためのお金も、やっぱりより多く、一般的なグループホームとかよりは、多くかかってくるということがあると思います。

先ほども少し木村さんからも触れてもらいましたが、やっぱりこの1年~2年で、地域住民の反対の声によって、グループホームの建設計画が白紙に戻るといようなことが、複数件、本当に悲しいことですけど起こっています。これは大津だけじゃなくて全国的に起こっています。

障害のある人への差別とか偏見をなくして、本当の意味での共生社会というのを作っていくためには、もう、この動画見ていただいた皆さん1人1人の方の、日頃、自分のとなりに座ってる人とか、近所の人とかそういう近い人に、「障害のある人の施設で働いてんねん。すごい楽しいよ！」みたいなこととか日常の中で喋ってもらうとか、そういう小さなことから差別や偏見というのをなくしていく一歩が始まるのかなっていうふうに思います。

グループホーム建設反対運動の声があったときでも、そのみんながみんな反対したわけじゃなくて「実は反対じゃなかったんだけどね、私、言い出せなかった」っていうような声もあったと、お聞きしてて、「私、反対じゃないよ」っていう人が、堂々と「私は、反対しません」って言えるような地域作りっていうのをしていけたらなっていうふうに思うので、ぜひ皆さんご協力をいただけたらなというふうに思います。

ありがとうございました。

ではこれでアンケートの報告を終わります。